

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成22年9月13日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方のためのケアマネジメント「センター方式」を母体法人からの講師と認知症介護研究・研修東京センター講師による研修を何回か受け、運用の方法を詳しく学び、センター方式を活用している。様々な情報・日々の関わりの中からスタッフ全員で情報を共有し、本人の意志を尊重し個性を大切にケアに取り組んでいる。
センター方式の研修以外にも、スタッフの資質向上のために全員での研修や力量にあわせた研修があり、常にケアの質の向上を目指している。
地域と方々とは交流の機会があり、地域との関わりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、広く他県にも事業展開している企業である。ネットワークを活かした情報収集や組織的な研修体制があり、事業運営やサービスの質の向上に反映させている。なかでも、職員からの改善提案の仕組みは、働く意欲を高めている。また、いち早く採り入れた、センター方式を活用し、利用者本位の、よりよい暮らしに繋げている。地域との関係づくりでは、熱意を持って取り組み、相互交流を緊密にし、地域に開放したホームになっている。利用者は、住み馴れた地域の中で、馴染みの人々と交流しながら、安心して健やかな暮らしを送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度スタッフ全員で、理念についての話し合いを行い、「喜びや不安を分かち合えるように、共に過ごすことを大切にします」「チームで(利用者・家族・地域の方々・医師・スタッフ)支援します」という新たな理念を作り、スタッフ全員で共有し、日々のケアに取り組んでいる。	理念は、「喜びや不安を分かち合い、共に過ごすことを、チームで支援する」を掲げている。理念は、目立つ位置に掲示し、朝のミーティングや会議等で確認している。利用者が不安なく、喜びのある暮らしを送れるよう、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流は増えており、地域の方には、畑の野菜作りに来て頂いたり、野菜の差し入れを受けたり、手作りのおやつを持っていったりと常に交流を持っている。又地域の老人会の方々には、毎月交替で草むしりや掃除、包丁研ぎ・季節食やお菓子作りなどに来て頂き交流を図っている。	地域の方が、野菜作りに毎日訪れている。野菜の差し入れに、利用者手づくりの菓子を返すなど、相互に交流している。老人会・健康サロンの人々と、ホーム周辺の草取り掃除、ほう葉寿司・菓子づくりなどで、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアで来て頂いたときなど、GHとは・認知症や予防について理解していただく機会を設けており、予防などについて話が弾むことも多く、地域の方々のお役に立てればという思いもあり、今後は介護相談なども受けれるように準備中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議では、現状報告や意見交換・防災訓練などへの参加をして頂いたり、地域の情報を頂きサービスに繋げているが、会議の内容についてはもう少し工夫していきたい。	会議は、2ヶ月ごとに開催し、町内会長・老人会長・民生委員・市職員が参加している。現況報告とボランティア受け入れの継続、防災訓練、アンケート結果の評価等について、意見を交わしている。意見は、サービス向上に繋げるように、取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは常に交流を持っている。運営推進会議の委員としても参加していただいたり、介護相談員受け入れや、市主催の会議や講演会などにも参加し情報交換も行っている。	市主催のケアマネジャー部会に毎月参加し、制度や研修情報を交換している。介護相談員を定期的に受け入れ、サービスの向上に活かしている。また、1ユニット増設が進行中であり、緊密に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの取り組みについて、話し合いを持ち、玄関にはセンサーを設置して外に出て行かれる方を制止することはせず、見守ることが多い。スピーチロックも含めて拘束についてスタッフ全員が理解し日々のケアに取り組んでいる。	全職員で、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の鍵は開放し、言葉による拘束もないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はスタッフ全員が虐待防止についての研修を受け、虐待についての話し合いも行い、徹底してケアに取り組んでいる。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について学び、成年後見制度を利用している方もあり、今後も必要と思われる方には活用できるような支援をしたいと思っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前説明の機会も設け、十分に理解された上で、入居につなげたり、改定時には其の都度説明を行い、理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、家族の意見や要望などについて、スタッフ会議で話し合いを行い、その結果を家族と運営推進会議の場でも報告を行い、更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。今後も年2回家族アンケートを予定している。	家族の訪問時、交流会、懇談会、アンケートなどで意見を聞いている。散歩の機会を増やせないか等の意見がある。意見・要望は、法人内のシニア会議で検討し、運営に反映させている。	家族には遠慮があり、本音を話せないことがある。家族とは、接触する機会が多いため、何でも話しやすい関係づくりと、職員が、意識的に意見を引き出すと共に、家族等へもホームの取り組みが、正しく伝わることを望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月に2回の会議に参加し、スタッフとの意見交換の機会を設けている。管理者も常にスタッフとの信頼関係作りにも努め、意見や要望を提案しやすい雰囲気作りにも努め、スタッフからの要望などは月1回のシニア会議の場で話し合い、改善策を講じている。	代表者は、月2回の職員会議で、意見交換をしている。外出時の車や職員の確保、ベランダや屋根の下に長椅子の設置など、多様な意見提案がある。法人には、意見・要望に対応する仕組みが制度化され、奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの取り組みや自己研鑽・実績などを把握し、夫々に応じたベースアップや賞与が支給されたり、様々な資格取得にも奨励金制度があり、又レク補助などの制度もあり、スタッフのやりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実績や力量については年3回情報収集を行っている。研修については年間計画でスタッフの力量に応じ、法人内から講師を招く拠点研修と法人の本社で各GHからの様々な集合研修があるなど学ぶ機会が多くスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の全GHが集まりGH部会を設け、情報交換や合同研修・相互訪問などを行って交流を図りサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・24時間パターンシートなどを記入したり、コミュニケーションの中から不安なことや要望などを把握し、情報を共有しながら早期対応に努めている。又環境に慣れるまでは家族様にも協力を頂き関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の家族とは事前面談時から、相談しやすい雰囲気作りに努め、困りごとや要望などを聞き、サービス利用についての説明も丁寧に行い、家族様との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された段階から事前面談を通して現状把握に努め、サービスの必要性を見極め、他のサービス機関や情報提供を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念と共に過ごすことを掲げて、本人のできることを尊重し喜びを引き出すよう声かけをしたり、一緒に行い、楽しく毎日を過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と共に支えるという理念を掲げ、家族様にも関わりを増やしていただくよう働きかけを行い、面会や外出の機会も持っていただいている。家族の面会時には、生活の様子なども伝え家族様との信頼関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回、地域の方がボランティアでホームに来られて交流が出来たり、入居前からのなじみの美容院を利用できるように支援しているが、スタッフだけでは限界があり、家族様の協力も頂いている。季節の行事を大切に、季節食・おやつ作り等で地域の方々と交流も多い。	友人・知人、近隣のボランティアの訪問が多い。来訪者には、馴染みの関係が継続するように、場面を提供している。馴染みの美容院、歯科医院、自宅などへ家族と協力しながら定期的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の気遣いもあるが、常にスタッフの間に入り、お互いに支えあえるように、又孤立しないような声かけや働き掛けを行っている。トラブル発生時も早期解決を図り、再発防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族と手紙などで情報交換を行い相談を受けたり、励ましを行うなどの交流を行なっているが、全員の方ではない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにはセンター方式を利用し情報を共有し、スタッフ全員がその人らしさを重視し一人ひとりの個別性を大切にしている。センター方式を理解するため、法人の協力で東京研修センターから講師を招いた研修も何回か行い活用中であり、今後も研修の予定がある。	利用者との会話や表情から、思いや意向を把握している。意思疎通の困難な人は、仕草や発する一言のサインを見逃さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時から家族や本人から情報を収集しセンター方式シートに記入し、スタッフ全員で共有し、ケアプランにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初には1日の様子は生活リズム・パターンシート・24時間生活変化シート・バイタルチェック表に記入しスタッフ全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望や本人の願いなどを事前に把握しておき、スタッフ全員参加のケアカンファレンスではアセスメントシートからよりよく暮らすための課題とケアのあり方を話し合い、ケアプラン原案を作成し、家族に確認している。カンファレンスに参加して頂くこともある。	本人・家族の要望を聞き、全職員のカンファレンスで気づきやアイデアを取り入れ、介護計画を作成している。また、医師・看護師などの関係者と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式アセスメントシートとバイタルチェック表にすべてを記録し、スタッフ全員で共有して日々のケアやケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭の状況や本人の希望などにより、協力医以外の受診時には通院介助を行ったり、特別な外出支援(理美容院・諸手続き等)を柔軟に行っている。母体法人からも外出支援・諸行事の応援・弁当配達なども受けている。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで情報を得ることが多く、地域で開催されている、健康サロンなどに参加したり、ホームに来ていただいて、皆さんと交流しているが、重度化が進み外出の機会が減りつつあるのが課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には家族や本人の希望を優先し、GHの協力医に変更になる方もあり、かかりつけ医には24時間スタッフも気軽に相談ができるようになっており、往診や緊急時の対応の支援が受けれる。地域の整形外科医も月に2回訪問され、様々な相談や対応が受けられるようになってきている。	入居前のかかりつけ医を継続している人と、法人の協力医にかかりつけ医を変更した人がある。法人の協力医は24時間体制で往診や緊急時の対応を行っている。近くには、整形外科医院と歯科医院もあり、協力を得て適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度、看護師を採用し、看護師との連携が図れるように情報を伝達したり、看護師からのアドバイスを受けたりできるようになり、異常の早期発見や受診へと繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報の提供を行い治療や早期退院へ向けての働きかけも行うなど関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を整え、重度化に対応できるように進めている。「GHでの看取りについて」の研修も受け、終末期について考える機械も設けた。家族とは常に信頼関係を築きながら、重度化や終末期について、家族の思いなどを聞きながら、GHとしての支援体制も説明する機会も設けている。	重度化・終末期に向けた対応指針マニュアルを整えている。家族とは、段階的に話し合い、方針の確認を行うことになっている。医師との24時間体制、看護師の採用、職員の研修も実施し、看取りの体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが年に1回、救急救命講習を受け、急変時の対応が素早く行えるように身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災を想定した訓練を全スタッフで行い、年に1回は消防署職員の立会いで総合防災訓練を行っている。地域の方々には火災発生時の応援体制も依頼しており、今後は地域の方々の協力を得て、訓練を行うため、11月の総合防災訓練時には非常食の試食会も予定している。	年1回、消防署が立会い、総合防災訓練を実施している。さらに、夜間を想定した避難誘導の自主訓練を毎月行っている。地域との協力体制もできており、次回の総合訓練には、住民にも多数の参加が得られるよう呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活習慣などをしり、個別性を大切に、スタッフ間で常に話し合いを行い、自分に置き換えて考えたり、排泄などの声かけも他者に聞こえないようにしたり、スタッフ間での引継ぎ時なども名前を出さないなど常に配慮している。	個々の生活習慣や性格を把握し、言葉かけを大切にしている。排泄などでは、声かけを小さく、職員間の引き継ぎではイニシャルを使うなど、常に誇りやプライバシーを損ねない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定・自己選択ができるように傾聴の姿勢を大切に、思いや希望を言って頂けるようゆったりと過ごして頂ける時間を持つよう心掛けている。コーチング研修を受けたスタッフが3名ほどありスタッフへの伝達も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日希望を伺うわけではないが、その日の体調や様子から個々のペースで過ごしていただけるように努めている。スタッフの思いを伝えすぎてしまう場面もあり、更に希望に添える支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフ全員が常に心掛けており、自立している方・介助がいる方など必要に応じて支援している。洋服など希望に添えないこともあるが、出来るだけ本人の思いを察して行えるように努めている。整髪も希望を伺いながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを見つけ出し、一緒に関わるようにし、毎回ではないが何らかの形で食事作りに関わっていただいている。手作りおやつも皆さんで楽しんで行っている。月2回、選択食の弁当があるが、認知症が進み摂食障害があり、刻み食・ソフト食の提供の方もいるが、食事を楽しんでいただきたい。	利用者は、食材の準備や後片付けなどを手伝っている。職員も、同じメニューを摂り、季節の野菜料理を話題にしながら楽しい食事をしている。おやつ作りや、好みで選べる月2回の配食弁当を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をしっかりとチェック・集計し不足のないようにしている。好みやカロリー・糖分は個々に合わせて盛り付けを工夫したり、粗刻み・刻み・ソフト食も個々の状況に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを行っていても完全ではない為、仕上げを行う必要な方や歯磨きの理解が出来ない方もあり、家族の協力を得ながら定期的な歯科受診によりフォローも受けている。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄に繋げる為、トイレをわかり易くしたり、夜間はドアを開けておくなどの工夫をし、自立を促している。排泄のパターンも記録して次の排尿時間の予測をしたり、行動から排泄のサインを読みとり、情報を共有しながら、声かけや誘導を行など常に話し合いながら対応している。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけ、トイレに誘導している。失敗が少なく自立できるように、トイレ表示を分かり易く、夜間はドアを開放している。特に配慮の要る人は、ベッドセンサーで感知し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事はもちろん、運動や水分量に注意を払い便秘の解消に努めているが、薬でのコントロールが必要な方や自力での排便の確認が出来ない方もあるが、看護師によるお腹の状況の観察などでの対応も行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間については午後となっており、すべて本人の希望というわけではないが、拒否された場合にはタッチケアを行ってみたり、家族様の協力を頂くこともあり、本人の思いを尊重することを大切にしている。又入浴を楽しんで頂いたり、気持ちよかったと思ってくれる様に常に心がけている。	入浴日は定めているが、希望によって定められた日以外でも入浴できる体制である。拒否の人には、タッチケア(手のひらで軽く触れる手法)で促し、効果を上げている。季節の菖蒲湯・みかん・バラ湯などで楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、自室で休んで頂ける様に声かけを行って空調などにも気を配ったり、夜間も就寝時間に違いがあるが、室温や明かりなどにも注意を払い、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや薬ケースには服薬名や目的・副作用などが記載してあり、常に確認できるようになっている。スタッフ間で確認を行いながら確実な服薬支援を行っている。主治医の往診時などにも薬の作用や副作用などの知識も得られている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントで得た情報や生活の中で知り得た情報を源に、新聞紙でのゴミ袋作り・掃除・洗濯物・貼り絵・習字・食事作り等を夫々に行って頂き、全員の方ではないが、自分の仕事と思い、い生きがいを感じて見えるが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状況により、午前中は出来るだけ屋外に出て散歩や野菜の収穫を行っているが、重度化から外出の機会が少なくなってきている為、家族様の協力にて、外出の機会(外食・誕生日・その他花火見学等)や、年に数回家族様と全員での花見や外食等を行っているが、もう少し増やしたい。	ホーム周辺の散歩、野菜の収穫で屋外に出掛けている。重度の人は、芝生の前庭で、外気欲を楽しんでいる。普段行けない花見・買い物・外食などへは、家族と協力して支援している。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は少ないため、個人的に管理されている方はみえないが、買い物時にご自分で支払いを行っていただくなどの支援を行いたいが、現在は買い物の機会が少なく今後は買い物などの機会を増やしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分からかけられる方が少ないが、電話支援は増やして行きたい。家族様の都合もあって、必要な時だけのことが多い。家族様が手紙を書く機会を作って下さり、お友達などに書かれたり、日記帳を書いて家族に見ていただく方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度や換気・湿度・音・光などには、常に注意を払い、快適に過ごせるように努めている。何よりも大切にしていることは季節を感じて頂きたいとの思いから、季節の貼り絵を皆さんで作るなどスタッフが工夫している。	対面キッチンのある居間は広く、天井も高い。利用者は、ゆとりの空間で、調理の香りや音を感じながら、思い思いに過ごしている。手づくりで、季節を感じる貼り絵、窓越しに住宅と山並みが見えている。居心地がよく、生活感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には2箇所にソファを配置し、気の合った人同士がくつろげるように、常に配置に気を配っている。屋外や玄関先にもベンチを配置し、屋外の景色も楽しめるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族様に馴染みの物が有効なことを理解して頂き、持ち込んでいただくようお願いしているが全員の方ではなく、面会時などにもお願いをしている。本人の思いを大切にしたい配置も心がけ、家族様が泊る事もできるようになっている。	馴染みの家具や小物類が持ち込まれている。さり気なく花や趣味の作品を飾り、落ち着いた部屋になっている。家族の写真、伴侶の遺影もあり、日々手を合わせながら、穏かに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、トイレ等はわかり易いように「便所」と張り紙をしたり、各自の椅子には見やすい位置に記名をしている。口腔ケアなども各自でコップなどが取り出せる位置に置くなどの工夫も其の都度行い自立支援を心掛けている。		